

## 八郎ヶ原放牧場の除染対策について

事業名 東日本大震災農業生産対策事業(農水省補助事業)

取組名 放射性吸収抑制対策(牧草地)

目的 放射性セシウムの吸収抑制効果が高いとされるプラウ耕、ロータリー耕による草地更新と放射性物質の低吸収品目・品種への転換を併用することで、次期作における牧草の放射性物質濃度を低減させ、被災前と同程度以上に牧草生産基盤を復旧させる。

現状 八郎ヶ原放牧場においては、平成24年度産永年生牧草のモニタリング検査の結果、牛用飼料中の放射性セシウムの暫定許容値である100Bq/kgを超えた牧草が確認され、牧草地の利用が自粛されている。

(参考データ) 本放牧場の放射性セシウム濃度 269Bq/kg

利用面積 51ha

### 事業の必要性

足腰の強い酪農経営の継続には、放牧による後継牛の育成・繁殖及び飼養管理の合理化が必要不可欠であり、牧草地の利用を可能とし、酪農経営の安定化を図るため、放射性物質の吸収抑制対策を進めることで、早急に牧草生産基盤を復旧させる必要がある。

補助率 国庫100%

その他 利用実績(放牧可能頭数：120頭)

	放牧頭数	放牧日数
平成21年度	98	173
平成22年度	79	169
平成23年度	24	160